

# 筑波大学特別講義

## — 大学と学問 —

科目情報	総合科目（学士基盤科目） 1226051「筑波大学特別講義—大学と学問—」 大学院共通科目 0A00508「UT-Top Academic's Lecture」
開設学期・曜日時限	秋 AB 水曜日 6時限（16:45~18:00）
科目責任者	柏木 健一（人文社会系） 五十嵐 沙千子（人文社会系） 山田 一夫（人間系）

### ◆ 筑波大学特別講義について 副学長（教育担当） 加藤 光保

高校までの学修は、学修者である皆さん自身が社会において自立して生きる市民として、職業生活、市民生活、文化生活などを充実して過ごせるように学力「知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度（主体性・多様性・協働性）」を向上させることが目的だったと思います。大学における学修にも同じ意義はありますが、それ以上に重要な大学における「学問」の意義は、人類が共有する知識や技能を向上させることにあります。高等教育機関で「学問」を学ぶ人は、初等教育を受ける「児童」や中等教育を受ける「生徒」と異なり、「学生」と呼ぶことが定められています。



学生の皆さんには、これまでの歴史上の記録や私達の記憶にない新たな状況が生起する現在において、様々な分野の知識を集積しつつ、他者との討論で自らを鍛えながら創造的な知性を涵養し、変動する社会に貢献できる課題解決力を身につけることが求められています。

「未来構想大学講座」の5つの科目は、本学における学びの原点として、それぞれに際立った特徴があり、生涯に渡って皆さんに示唆を与える本学ならではの「学問」の入口を提供しています。

「大学と学問」では、現代社会の様々な分野で新しい世界を切り開いてきた講師陣から、彼らのライフワークについて紹介していただき、勇気を出して質問し対話していただくことで、その生き方、学び方、学問の広がりや深さ、社会での実践に接し、そして自らの将来について深く考えていただくことを期待しています。

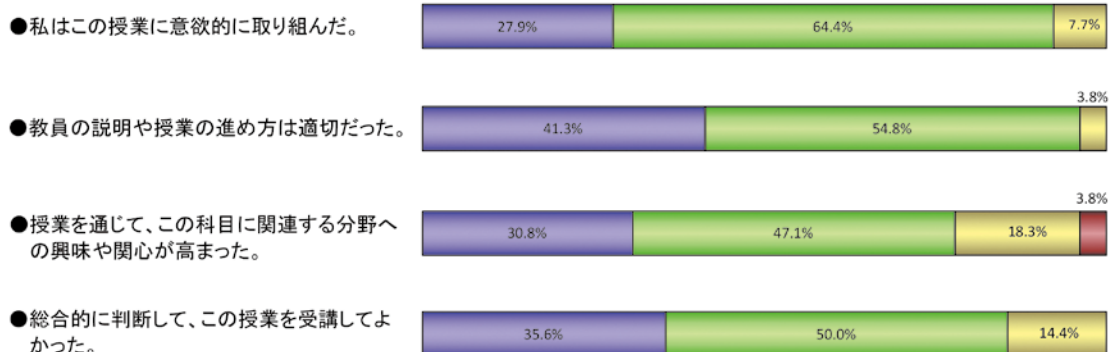
### 受講した学生からの反響

受講者アンケートからも分かる様に、講師陣の熱意あふれる講義は大半の受講生にしっかりと届いています。そしてその結果たくさんの受講生達が「新しい知識や考え方が習得できた」「満足できる講義だった」と評価しています。

これまでの講義では質疑の挙手が後を絶たず、時間の関係で終了した後もステージに学生が駆け寄り個々に質問する場面が見られるなど、大変好評でした。この特別講義の感動を、今度は是非あなた自身が体験してみてください！

### 2022年度筑波大学特別講義受講者アンケート結果から（回答者数 104人）

■ 大いにそう思う ■ そう思う ■ どちらとも言えない ■ そうは思わない ■ 全くそうは思わない



## 講師陣紹介

第1回  
10/2



### 永田 恭介

筑波大学 学長

**プロフィール** アルバート・アインシュタイン医科大学博士研究員、スローンケタリング記念癌研究所研究員、国立遺伝学研究所助手、東京工業大学助教授、同教授を経て、2001年から筑波大学教授、2009年から学長補佐室長。2013年より学長就任。専門は、分子生物学、生化学、ウイルス学。1993年日本ウイルス学会杉浦奨励賞受賞。著書に、「ウイルスの生物学(羊土社)」、「ウイルス実験プロトコル(メジカルビュー社)」等多数。

**授業概要** **大学と学問** コロナウイルス感染症の拡大とともに、他の地球規模課題をも実感している。こうした課題を解決するための科学と技術の進歩は、一方ではエネルギー・資源に関する問題、産業・経済に関わる問題、食料、人口構成、格差社会の問題などを生んだ。いずれの問題についてもやはり地球規模での認識と解決が必要である。基礎科学から創薬にまで繋がる研究に携わってきた経験と実感を交えて、これからの大学の役割と大学における学問について考える。

第2回  
10/23



### 伊藤 節

筑波大学芸術系 教授、デザイナー

**プロフィール** 筑波大学大学院芸術研究科修了後ミラノに渡り、1995年デザイン事務所設立。プロダクトからインテリア、建築まで多岐にわたるデザインを総合的に行う。世界各国で作品を発表し、ゴールデンコンパス賞(伊)、レッドドット賞、IFデザイン賞(独)、グッドデザイン賞(米)他多くの国際デザイン賞を受賞。作品はミюнヘンとミラノの近代美術館に永久保存されている。ドムスアカデミーなど世界の多くの有名デザイン校で教鞭をとり、現在は筑波大学教授、東京大学先端研特任教授、ミラノ工科大学特任教授を勤める。

**授業概要** **ネイチャーセンタードデザイン** 全ての人が人間らしく生きるための原動力ともいえるアート、人と科学技術の間のインターフェースともいえるデザインは、俯瞰知、総合知として現代の多くの難解な社会問題に挑み、大きな社会変革に人類を適応させていくための有効なツールである。急激な技術革新の中で、宇宙レベルの環境・社会問題に対峙し、自然の一部としての人類は如何に人間性を維持・回復し、自然と共生し発展していくための人・もの・社会づくりを目指すべきか。分野を超えた様々なネイチャーセンタードデザインの事例を通して一緒に考えていく。

第3回  
10/30



### 柳沢 正史

筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構(WPI-IHS) 機構長・教授

**プロフィール** 1985年筑波大学医学群卒業、1988年博士課程修了。1991年31歳で渡米し、2014年までテキサス大学にて研究室を主宰。2010年より筑波大学教授を兼任し、2012年より国際統合睡眠医科学研究医科学機構(WPI-IHS)の機構長として睡眠覚醒の謎に挑んでいる。筑波大学大学院生のときに血管収縮因子「エンドセリン」を発見、1999年には脳内の覚醒物質「オレキシン」を発見した。これらの発見は、いずれも上市新薬の開発に直接結びついた。2003年米国科学アカデミー正会員、2016年紫綬褒章、2018年朝日賞、慶應医学賞、2019年文化功労者、2023年ブレークスルー賞、クラリベイト引用栄誉賞など受賞多数。

**授業概要** **睡眠の謎に挑む** 「なぜ眠らなければならないのか?」「そもそも眠気とは何か?」といった誰もが抱く疑問は未だに解明されていない。日米両国で最先端の研究を行ってきた経験を踏まえ、現在筑波大学で行っている睡眠・覚醒の根本的メカニズムの解明に関する研究について紹介する。

第4回  
11/6



### 尾懸 貢

筑波大学体育系 教授

**プロフィール** 1959年兵庫県生まれ。1982年筑波大学体育専門学群卒、84年同大学院修了、博士(体育科学)。2010年から筑波大学体育系教授。専門は、スポーツコーチング・マネジメント。日本陸上競技連盟会長、日本オリンピック委員会専務理事。日本コーチング学会会長。高等学校学習指導要領解説保健体育編作成協力者、スポーツ庁スポーツ基本計画作成部会委員。TBS番組審査審議会委員。

**授業概要** **トップアスリートの「心技体」を探る** オリンピックなどの国際競技大会で活躍するためには、心(精神)・技(技術)・体(体力)が高いレベルで求められる。トップアスリートの心技体を高めるための取り組みを科学的に検証するとともに、本番で最大力を発揮する秘訣についても考える。加えて、東京2020後においてスポーツが果たすべき社会的な役割、アスリートの目指すべき姿についても触れる。

第5回  
11/13



### 辻中 豊

東洋学園大学 学長、筑波大学 名誉教授

**プロフィール** 大阪大学、同大学院、博士(法学)京都大学。コーネル大学研究員、筑波大学教授、同副学長、人文社会比較研究機構長をへて、東海大学副学長。日本政治学会理事長(2014-16)、世界大学連盟(IAU、本部/リ)アジア代表理事(2012-16)。特別推進研究(文部科学省)等を経て世界15か国の市民社会構造とガバナンスに関する研究を遂行。著書に「利益集団」、編著に「現代市民社会叢書」(5巻)、「現代世界の市民社会・利益団体研究叢書」(3巻)、Aftermath: Fukushima and the 3.11 Earthquake等。

**授業概要** **世界と日本の市民社会と政治を輪切りにする：政治の「なぜ」に答える** 世界との比較でみると日本政治には「なぜ」が無数にあります。なぜ、保守党がかくも長期に政権を維持し、他方野党にはできないのか、なぜ官僚制は小さいのにタフなのか、なぜ、政治の決定がかくも遅いのか、日本は非西洋でまれな自力近代化と民主主義を確立したのか、とはいえない市民の参加は乏しいのか、なぜ、大震災に耐えたのに、コロナ禍では、デジタル政府が進まなかったのか?謎を解く鍵は、政治と市民を結ぶ市民社会にあります。国際比較の中で答えを探ります。

## 講師陣紹介

第6回  
11/20



### 伊藤 眞

日本フンボルト協会 理事長、筑波大学 名誉教授

**プロフィール** 1956年東京生まれ。専門は、ドイツ言語学、特に、日独対照語彙文化論。学習院大学大学院修了。博士(ドイツ文学)。1991年筑波大学講師、1997年ドイツ・フンボルト財団給付生としてドイツ連邦共和国ドイツ語研究所客員研究員。帰国後、筑波大学助教授、准教授を経て、2005年筑波大学教授、その後、人文化学群人文学類長、人文・化学学群長、副学長(教育)を経て、現在、筑波大学名誉教授。日本フンボルト協会理事長。

**授業概要** **大学で学ぶということ、海外で学ぶということ** コロナ禍の中、海外留学がしづらい状況が続いているが、チャンスをつかんで、是非、海外に飛び出してもらいたい。海外での生活にはそれなりの苦労があるが、それぞれの国で実際に生活することにより、その国の長所、短所を直接、肌で感じるという貴重な体験をすることができる。本講義では、大学で学ぶこと、海外で学ぶことの意義を、日独学術交流の促進に努める立場を踏まえて考えてみたい。

第7回  
12/4



### 林 佳世子

東京外国語大学 学長

**プロフィール** 専門：オスマン朝史、トルコ研究。

1984年お茶の水女子大学人文科学研究科修士課程修了(文学修士)。1988年東京大学人文科学研究科博士課程(東洋史学専攻)退学。1988年東京大学東洋文化研究所助手の後、1993年東京外国語大学外国語学部講師に就任。1996年同大学助教授、2005年同大学教授を経て、2013年に副学長に就任。2019年より現職。

**授業概要** **歴史から考える** 皆さんが中学や高校で習った日本史や世界史は、暗記科目だったかもしれませんが。しかし、歴史を学ぶということは、そもそも、これまでの人類の歩みから今の私たちの立ち位置を考える、という行為にほかなりません。それが、古代の都市の繁栄であれ、ロシアのウクライナ侵攻であれ、過去の出来事を、今の私たちの目で解釈し説明する、そのストーリーが「歴史」となります。そんなことを、私の専門であるオスマン帝国を例に少し紹介したいと思います。

06

第8回  
12/11



### 長谷川 康一

UiPath株式会社 代表取締役CEO

**プロフィール** 広島県出身 慶應義塾大学法学部法律学科卒業。アクセンチュア、ゴールドマンサックス、ドイツ銀行、パークレイズ銀行でコンサルティング、チーフインフォメーションオフィサー、チーフオペレーティングオフィサー等を歴任し、国内外拠点でマネジメントを経験。パークレイズ銀行ではグローバルテクノロジーの3分の1にあたる1万人規模のアジア地域部門をシンガポールで統括する。2017年2月にUiPath日本法人を1人で設立、3年で業界のリーディングカンパニーへ。日本を元気にするために、「1人1人がデジタルロボットを」「現場が主役の、輝く新しい自動化」を提唱している。著書「現場が輝くデジタルトランスフォーメーション」「現場が主役の日本型DX」(ダイヤモンド社)等。

**授業概要** **Brimming with Curiosity (あふれ出る好奇心)** これからのDX時代をリードする人財、世界に羽ばたいていける人材に必要とされているものは何か? 2017年に1人でスタートアップの日本法人を立ち上げ、3年でリーディングカンパニーに成長させNYSEでの上場に大きく貢献した自らの体験をもとに、実際に学生にも参加してもらいながら検討していく。

第9回  
12/18



### 鈴木 健嗣

筑波大学システム情報系長、教授、学長補佐

**プロフィール** 2003年早稲田大学理工学研究科物理学及応用物理学専攻修了、博士(工学)。早稲田大学助手、筑波大学講師、同准教授、及び伊・ジェノヴァ大学、仏コレージュ・ド・フランスの客員研究員を経て、2016年より筑波大学教授。専門は、人工知能、サイバニクス他。本学サイバニクス研究センター、人工知能科学センター、附属病院未来医工融合研究センター設立に参画。2021年よりつくば市顧問としてスーパーシティ業務に従事。

**授業概要** **人々を支援する人工知能とヒューマン・テクノロジー** 人々の残存機能や、本来有する能力を引き出すためのテクノロジーに関する研究を紹介する。これらは、人々の行動の深い理解に基づき、人工知能やロボット等の工学的な手法により行動形成を支援することで、人々が主体性を持って社会的な行動を行う未来を実現するための取り組みである。応用科学と社会実装に携わってきた経験を踏まえ、文理を超えた新しい学問分野や新産業を開拓するため、学術性と実践知を両立する学問の重要性について考える。

第10回  
12/25



### 受川 史彦

筑波大学数理解物質系 教授

**プロフィール** 東北大学理学部物理学科卒業、筑波大学大学院物理学研究科修了、博士(理学)。米国ペンシルバニア大学博士研究員、筑波大学助教授、同教授。専門は素粒子物理学(実験)。

**授業概要** **基礎学問の価値とは何か** 物理学は自然の法則を明らかにする学問分野で、その中でも素粒子物理学はいわゆる「世の中の役に立たない学問」の筆頭に分類される。一方で、現在の大学は、社会のさまざまな課題を直接的・即効的に解決することが期待されている。このような時代において、基礎学問の持つ価値とは何か、社会に対してどのような貢献ができるのか、を考えてみたい。素粒子物理学の最新の研究の一端も紹介します。